

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和5年3月10日

事業所名 児童デイサービスまはろ天久

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1		部屋が複数に分かれているため、それぞれの興味・関心に合わせた活動ができる。	部屋数が多い為、より有効活用できるようにしていく。また、今後はさらに各部屋の使用目的を児童にもわかりやすいように提示していく。
	2	職員の配置数は適切である	1	3	2	児童が自立して遊べるよう環境を設定している。	人員配置基準は十分に満たしているが、更なるレベルアップを図る意味で個別支援を充実させたい。そのために追加で1.2名ほどスタッフが増えることが望ましい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		2	4		車椅子を使用している児童の為に事業所前にある階段にスロープをつけられると良い。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	1	3	2		スタッフ会議を増やし定期的に自己評価を行っていく。活動計画を作成し、全員で共有できるようにしていけるような体制を整えていく。その中で、振り返りも行っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	3			定期的に自己評価を行うことで、日々の業務改善に努めていく。事務作業の効率化を図り、日々の療育や児童の支援会議の時間を増やしていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6				公開された内容を保護者の方にも案内していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	1		月に1回、本部の方に現状報告や改善点について助言をもらっている。	本部から外部評価を受けているが、全スタッフへの周知ができていないことが多い為、スタッフ会議等で共有していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	1			他事業所の療育を見学する等、身近なところから研修の機会を作っていきたい。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			定期的なアセスメントも行っているが、日々の引き継ぎ時の申し送りも大切にしている。	アセスメントをより適切に行うために事業所スタッフだけでなく、保護者や関係機関との連携を深めていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		6			共通のアセスメントツールをいつでも手に取れるようにする。また、定期的にスタッフ全員でアセスメント会議を行い共通理解を図っていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	2	4	1		これまでは、主に課題担当1名が立案を行っていたが、今後は2名以上、または全員で立案を行っていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1		固定化しないように気を付けているが、児童や保護者からのニーズが高いものに関しては、多く取り入れるようにしている。	目的をもって固定化しているものもあるので、支援目標に対して必要な活動かどうかを改めて検討し、必要なものは残し、必要のないものは変更していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	1		長期休みには、普段はできない活動を取り入れるようにしている。	引き続き、休日や長期休暇ならではの課題を設定していく。特に、長期休暇には、単発の課題ではなく継続して取り組めるものも取り入れていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6			児童の発達段階や特性に応じて、個別支援も行っている。	個別での活動も取り入れているが、十分な時間を確保できていない為、療育時間のスタッフの支援体制の見直しを行っていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	2		朝礼の中で、当日の支援内容や共有事項について確認している。	引き続き、毎朝の打ち合わせ時間を設定し、1日のシミュレーションを行った上で療育に取り組んでいく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		3	3		現在、朝礼の中で当日の支援内容についての打ち合わせを行い、翌日の朝礼の中で振り返りを行っている。今後は、内容をより精査していき、効率的に情報共有が行えるようにしていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	2		日々の児童の様子を記録として残し共有している。	生活記録として、前日の様子について記録をとっている。継続して行っていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			面談でのモニタリングができない場合は、電話にて対応する等、保護者の方と連絡を取りやすいツールを活用している。	今後も継続して行っていく。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	3	3			ガイドラインに沿って、改めて基本活動の見直しを行い活動が偏らないようにしていく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			基本的には、児童発達支援管理責任者が参加しているが、必要に応じて児童指導員にも参加をお願いしている。	現在は、児童発達支援管理責任者のみでの参加が多い為、児童と関わり深いスタッフも会議に同席できるよう調整していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	1		朝礼にて、当日に担任と確認する内容について全員で共有している。	今後も継続して行っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	3	1		現在は、医療的ケアが必要な児童はいないが、必要に応じて、医師の指導の元、支援を行っていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	2		必要に応じて、各関係機関との面談を行っている。	会議の設定が難しい場合には、電話での聞き取りを行う等、各連携期間と関係性を作っていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6			現在はまだ移行した例がない為、その場合は情報提供を行っていく。	しっかりと情報共有を行っていくためにも日々の記録を大切にしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3	1		今後は、研修の機会を設定しスタッフのスキルアップに努めていく。直接の参加が難しい場合には、オンラインでの参加に努めていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	2	3		事業所以外での活動にも積極的に参加し、児童だけでなく様々な方々と交流をもてる機会を設定していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	1	2		参加に努めているが、定期的に参加できる体制を整えていく。また、参加するだけでなく関係者を招いて連携できるような体制を整えていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			日々の送迎時に、保護者の方にその日の様子や支援内容をお伝えしている。	今後も継続して行っていく。直接保護者とお会いできない場合には、連絡帳やメールを通じて児童の様子を共有していく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	2	3		外部講師をお招きし、スタッフも保護者の方も一緒に学ぶことのできる体制を作っていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			契約時に、それぞれの内容について説明を行っている。	口頭での説明だけでは漏れが出てしまう可能性がある為、しっかりと紙面で共有していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			帰送迎時の申し送りだけでなく、メールや電話等、気になる事があればその都度連絡を取るようにしている。	今後も継続して行っていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		1	5		年間計画を立て案内を作成し、保護者の方のご理解とご協力を頂けるよう計画的に開催していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			苦情が否かに関わらず、保護者の方からの申し送りについては、スタッフ全員で共有している。	苦情があった場合には、管理者にすぐ報告するよう共有していく。また、苦情だけでなく保護者からの申し送りについては、日々の朝礼のなかで共有していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		1	毎日の様子をブログで発信している。また、連絡帳をweb上で見られるようにし保護者に送受信しやすいツールを活用している。	今後は、事業所の療育に対する考え方や取り組みを発信していけるようにする。
	35	個人情報に十分注意している	6			職務上知り得た情報については、他言しないように共有を行っている。	写真の顔出し等について、名前の掲載については、特に注意を払って取り扱っていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			本人の希望が読み取れない場合には、保護者の方の意向を踏まえて意思決定を行っている。	個に応じた情報伝達の方法については、より一人ひとりに合った方法を取り入れていく必要がある為、色々な方法を試していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	1	4		事業所で育てた花を地域の方におすそ分けする等、まずは地域の方々と顔なじみになれるような活動を行っていく。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2			マニュアルは作成しているが、保護者の方がいつでも確認できるような形を整えていく。月に1回、活動概要や行事予定、マニュアルの周知を行っていく等。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6				9月と3月の年に2回、児童とともに避難訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			月に1回、児童発達支援管理責任者の定例会で研修を行っている。	今後は、管理者が月1回の虐待研修を受けた後には、全スタッフにもその内容を共有していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	1		身体拘束を行う場合の適切な準備、説明についての流れをスタッフ全員が把握している。	現在は該当児童無し。必要に応じて、保護者や各関係機関を連携してその必要性を検討した上で、示されている手順に沿って実施していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1		アレルギーのある児童の保護者とその都度事前に確認を行っている。	アレルギー発生が予測される活動の前には、保護者の方に確認を行っている。今後も継続していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	2	1		会社全体への報告は行っているが、ヒヤリハットの作成まで行うことが出来ていない為、作成し共有を行っていく。